

## 2. 計測内容

建物の振動性状を測定するために、以下の2通りの方法を用いた。

- a) 常時微動測定：建物および地盤上の常時微動を測定した。本測定では、600秒または500秒間の測定を連続して6~8回収録した。
- b) 人力加振：建物7階の中央部分の柱に人力(6名程度)による強制加振(連成系建物の1次卓越振動数に対応させた加振、約10秒間)に伴う、加振中および加振後の振動を数回収録した。

短辺と長辺方向の測定位置を図3.1に示す。1階とR階に水平成分3点、上下2点、4階に水平1点、周辺地盤上(建物から13mに2点、26m離れた位置)に水平3点の測定器を設置した(2棟とも共通)。

各棟で別の測定器を用い、A棟ではサーボ型速度計(VSE-15D、東京測振製)により速度波形を、B棟では動コイル型換振器(MTK-H/V、振動技研製)により速度波形を測定した。

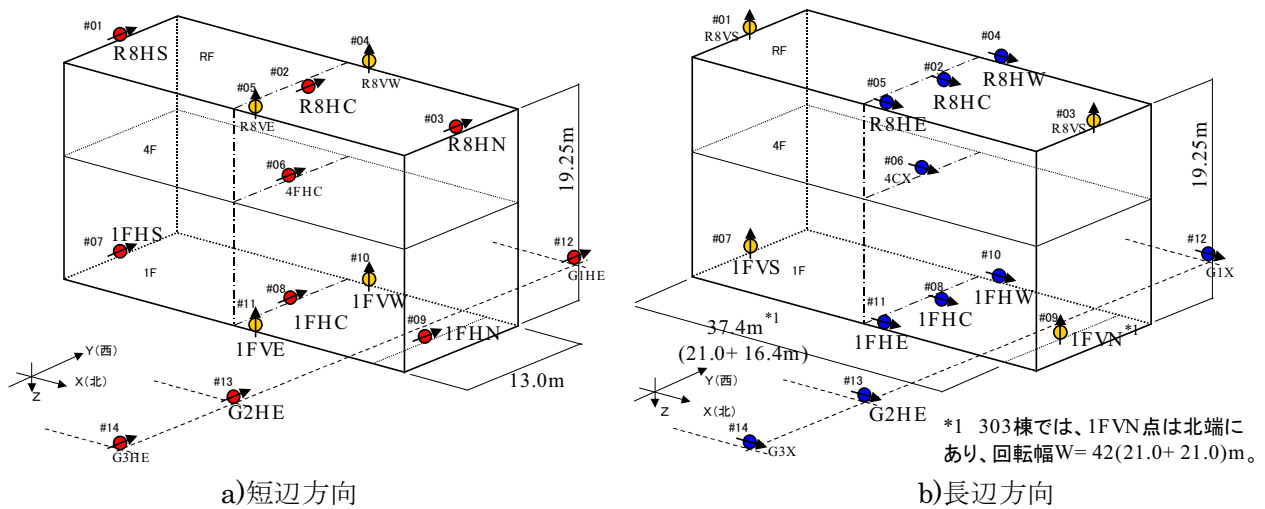


図 3.1 測定点位置と記号